

ナミハダニの春期における下草からりんご樹への移動時期と 除草剤利用による防除

(園試 環境部)

1. 背景とねらい

ナミハダニは、樹上や樹冠下の下草で越冬する。最近、除草剤のピアラホス水溶剤（商品名：ハービエース水溶剤 以下商品名で表記）が高い殺ダニ活性を有することが明らかにされ、本剤をナミハダニの重要な繁殖場所である下草に散布すると、下草から樹への移動が阻止されることが示唆された。一方、有効な殺ダニ剤は少なく防除に苦慮している園地は多い。そこで、春期におけるナミハダニの移動時期を解明するとともに、夏期の殺ダニ剤の使用時期を遅らせる補助的な予防手段として、本剤の有効な散布時期を検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

2. 技術内容

- 1) ナミハダニの下草から樹への移動は、4月上・中旬から断続的に生ずる。下草での密度が高い時期に、殺ダニ活性のない除草剤を散布したりまたは高温条件が続くと、樹への移動個体が急増する。
- 2) ハービエース水溶剤200倍を100～150 μ g/10a散布すると、樹上のナミハダニ防除時期が、機械除草や殺ダニ活性のない除草剤を使用した場合に較べて遅れる。
- 3) ナミハダニ防除と除草を兼ねた散布適期は5月上旬の開花前である。

3. 指導上の留意事項

- 1) ハービエース水溶剤は平成2年にハダニ類に登録取得された。
- 2) 下草での越冬密度が高く高温条件が続くと、散布前に多数の越冬成虫が樹へ移動するので、ナミハダニの防除効果は期待できない。また、下草の越冬密度は樹上の越冬密度を反映する。したがって、樹上での防除は適正に行い越冬密度を低くすることが必要である。
- 3) 樹上で越冬したナミハダニや樹上で卵越冬するリンゴハダニに対しては効果はない。
- 4) 生育中のりんご樹には絶対散布しないこと。
- 5) 秋期散布による効果については試験中である。

4. 当該事項にかかる試験研究課題名

ハダニ類の発生生態と防除法

5. 参考文献・資料

平成元年度、2年度 寒冷地果樹試験研究成績概要集

6. 試験成績の概要

表1 試験区の構成

区No	開花前 5/2	落花期 5/17	落花1ヶ月 後 6/18	備 考
1	◎	—	—	試験場所：場内圃場 ふじ/M26 14年生 区制：1区20m ² (5樹) 2連制 草生状況：ハコベ、クローバが優占 ◎ ハービエース水溶剤 (200倍) ○ プリグロックスL (188倍) 10a当り散布量：150ℓ(5/2), 250ℓ(5/17) 200ℓ(6/18)
2	—	◎	—	
3	—	草刈	◎	
4	○	—	草刈	
5	—	○	草刈	
6	—	草刈	○	
7	草刈 5/17, 5/31, 6/18			

表2 樹上におけるナミハダニ発生消長

区No	主幹に近い花そう葉							新梢中位葉		要防除密度 到達時期 a)
	5/2	5/9	5/17	5/28	6/11	6/14	6/25	6/25	7/7	
1	0.3	0.3	1.6	2.5	5.5	—	—	9.4	29.1	7月2半旬
2	—	—	0.9	2.7	4.0	—	—	15.6	35.9	7月1～2半旬
3	—	—	—	—	—	20.0	89.7	38.7	87.2	6月5半旬
4	0.1	1.1	4.4	18.6	22.8	—	—	46.4	—	6月4～5半旬
5	—	—	0.7	6.6	13.7	—	—	28.0	—	6月5半旬
6	—	—	—	—	—	17.7	91.2	29.2	88.8	6月5半旬
7	0.6	1.0	4.5	9.5	17.9	—	113.2	22.8	89.7	6月5半旬

数値は10葉当り寄生成幼若虫数

a) 寄生虫数3頭/葉